



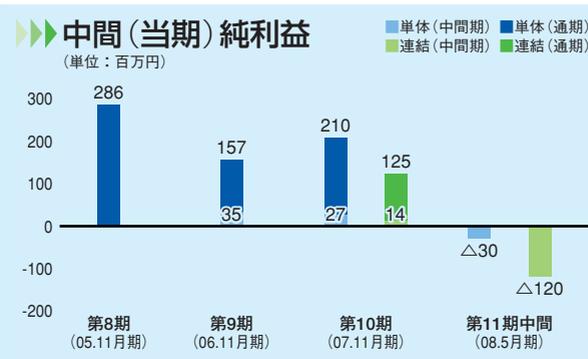
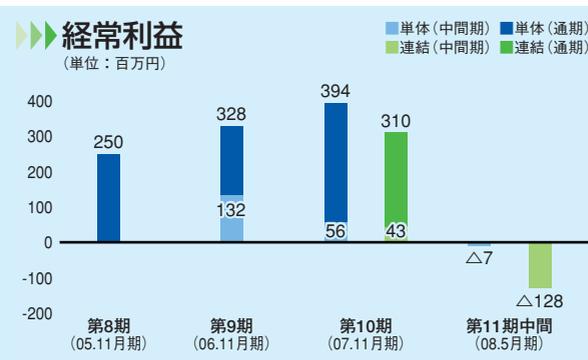
 **イーサポートリンク株式会社**

第11期中間 **株主通信**
2007年12月1日から
2008年5月31日まで

CONTENTS

- P01 … 財務ハイライト
- P02 … 株主の皆様へ
- P03 … システム紹介 生鮮MDシステム
- P05 … システム紹介 生産履歴システム「農場物語」
- P06 … 子会社紹介（株式会社農業支援）
- P07 … IR活動報告／株主さまアンケート結果報告
- P09 … セグメント別概況
- P10 … 中間個別財務諸表（要旨）
- P11 … 中間連結財務諸表（要旨）
- P13 … 株式の状況／会社概要
- P14 … 株主メモ／ホームページのご案内

財務ハイライト



3つの事業を柱に 事業拡大を目指します

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。第11期中間「株主通信」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

わが国の経済は、米国経済の減速等から景気の下がりリスクがたかまっており、企業の経営環境は、原油・原材料の価格高騰等の影響を受け、その厳しさを増しています。2008年11月中間期は、青果流通業界においても、原油等の価格上昇により、生産コスト高が起っている一方で、販売単価は変わらず、厳しい状況が続いています。

このような状況のもと、当社は、発表させて頂いた中期経営計画の1年目の半期終了時点ではありますが、2007年11月中間期に比べ、売上は、業界を取り巻く厳しい環境を反映し減少、予算比未達に終わりましたが、営業利益、経常利益は、コスト削減に努力した結果、赤字ではありますが、計画を上回ることが出来ました。2007年12月より生鮮MD本部を設置し、本格的に取り組んで参りました量販店向けのビジネスである「調達支援ビジネス」については、本格稼働に向け順調に開発が進んでおり、2009年11月期には、売上、収益に大きく貢献してくるものと考えております。この「調達支援ビジネス」を柱とし、従来の輸入青果物を中心とした「基幹ビジネス」や国産青果物生産者・生産者グループに対し、青果物のマーケティング

活動並びに短期金融支援を行う事業を、株式会社農業支援を基軸として展開し、“食の安全・安心”をテーマに農作物のブランド化を目指していく「販売支援ビジネス」も引き続き推進して参ります。

当社を取り巻く環境は、市場環境を含め引き続き非常に厳しい状況が予想されますが、新たにスタートするビジネスを中心に、業績進展に邁進していく所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後も引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

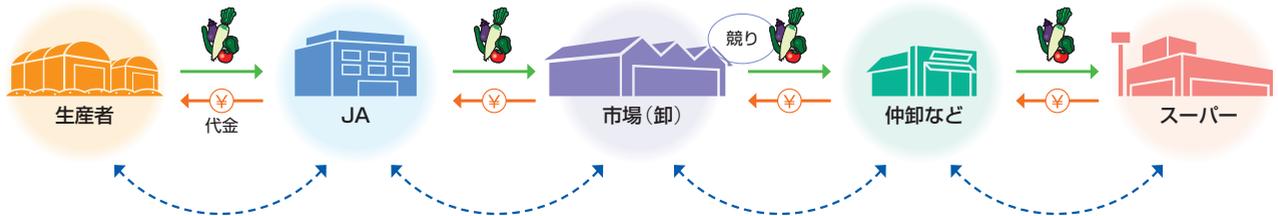


代表取締役社長

堀内信介

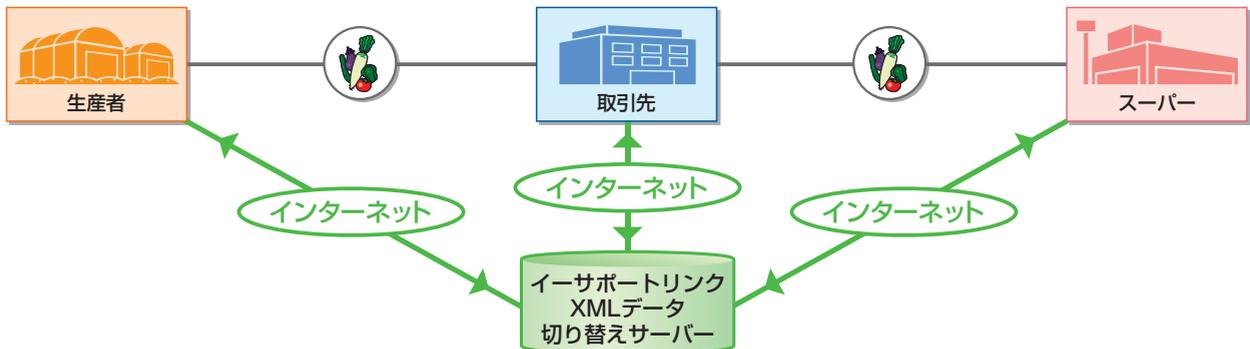
生鮮青果物流通を革新する「生鮮MDシステム」の取り組み

従来が生鮮青果物流通



それぞれ1対1の取引・決済で、情報追跡も難しい

流通システムの標準化〈XML-EDI〉(経済産業省主導によるもので、流通の1つの手段)



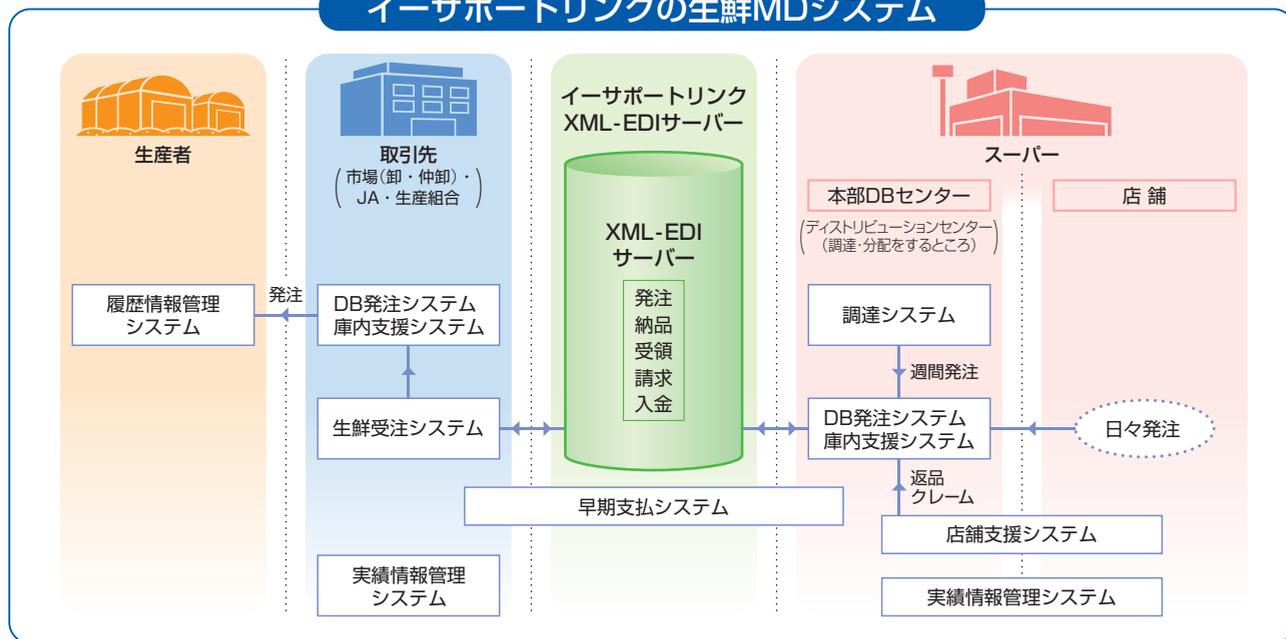
インターネット経由で、生鮮青果物流通に関わるすべての人と
コミュニケーションが容易になります

しかし、XML-EDIだけでは生鮮青果物は動きません!

当社は、XML-EDIをベースに、 新システム「生鮮MDシステム」を構築！

それぞれの立場に応える商品調達戦略を支援します

イーサポートリンクの生鮮MDシステム



ここまでトータルな生鮮青果物流通に必要なシステムを持っているのは
イーサポートリンクだけ！

「生鮮MDシステム」を導入すると…

- 商品の売れ残りや欠品などが減少
- 商品のトレーサビリティ(情報追跡)が実現
- インターネット経由で生産者とスーパーがコミュニケーションをとれる

「生鮮MDシステム」を導入したスーパーの生鮮品コーナーには、安全が確保された商品が並びます！

生活者が安心して買い物できる環境が整います！

安全・安心な青果物を生活者に届けるために欠かせない、 当社のサポートシステム

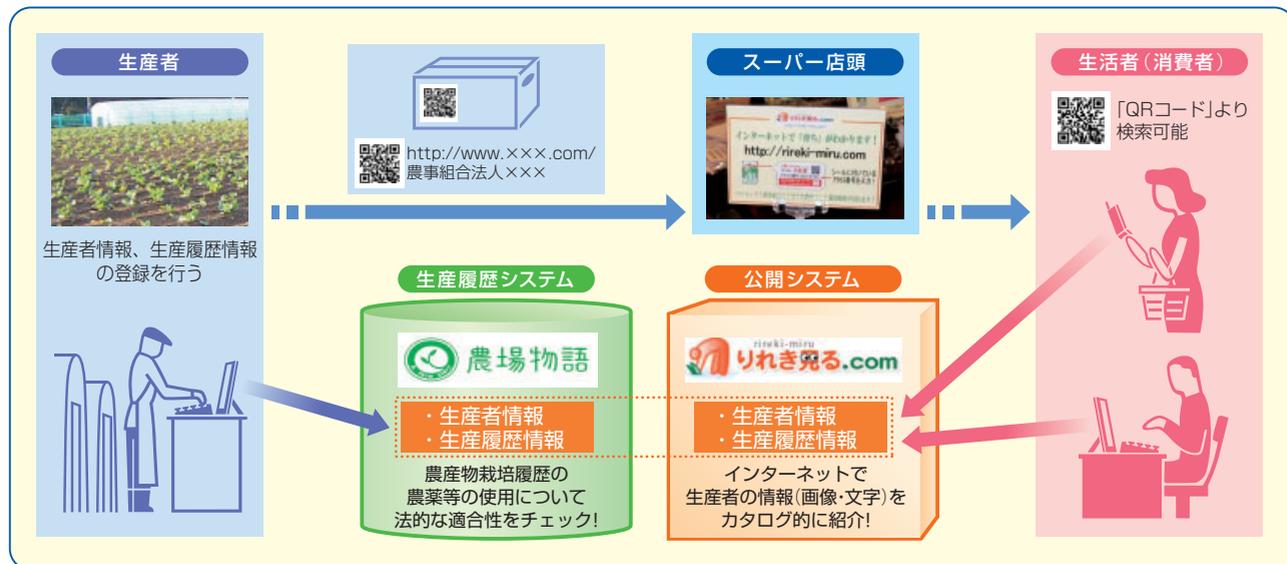


～農家の皆さんをサポートするために作りました～

1. 栽培計画段階で、使用する可能性のある農薬をチェック!
2. 使用後の報告で、2回目のチェック!
3. 農薬以外の施肥、資材、圃場管理、出荷情報をデータベース化!

農薬の誤使用を事前に防止!
農薬使用リスクの最小化を実現!

「農場物語」と「りれき見る.com」で、生産者情報、生産履歴情報が明確に!



※「りれき見る.com」は、日本SEQ推進機構によって企画・運営されています。

全ては農業生産者と生活者のために！



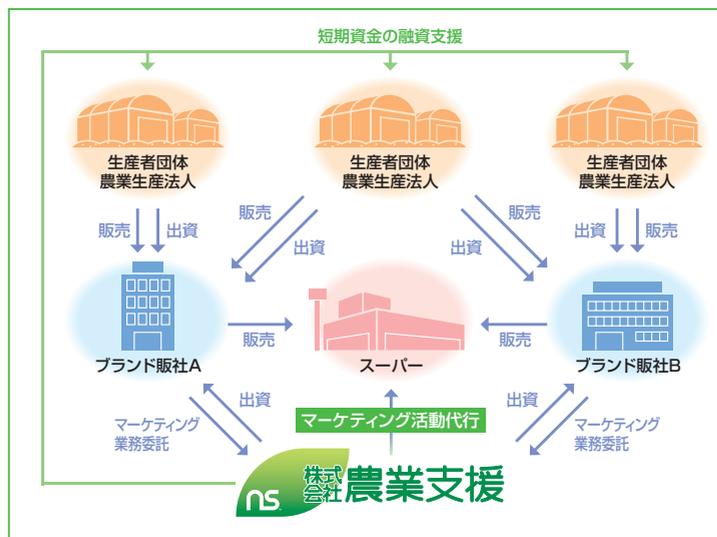
商号：株式会社農業支援
所在地：東京都中央区新富2-14-7
(2008年7月に本店を移転しました)
役員：代表取締役社長 堀内 信介

事業内容

- りんご事業：屈指のブランド力を誇る生産団体のりんごを受託販売
- マーケティング事業：全国の農業生産者団体の協力で創りあげる農産物ブランドのマーケティング
- 金融支援事業：農業経営の安定に必要な短期資金の融資支援

ビジネスモデル

▶▶▶ 概念図



▶▶▶ ブランドコンセプト

おいしい

- 消費者モニターの食味高評価野菜を採用
- 「旬の産地」をリレー収穫

適正価格・安定供給

- 安全をいつも適正・安定価格でご提供
- 産地リレーにより年間52週の安定供給を実現

安全・安心

- 生産者情報を公開
- 栽培履歴が簡単に分かる

IR活動報告

当社は、経営の透明性を高める情報開示をはじめ、機関投資家向け説明会の開催や紙面での情報発信など積極的に取り組んでおります。

決算説明会の資料や掲載された記事などは、当社ホームページにも反映させ、情報を入りいただける仕組みにしています。

【ホームページ】

<http://www.e-supportlink.com/>

2008年2月1日(金)

機関投資家向け「07年11月期決算および中期経営計画説明会」を開催

2008年6月9日(月)

農業ビジネス誌「農業経営者」読者の会定例セミナーにて、社長が講演

「(株)農業支援という会社をなぜ作ったのか」を題材に、主な事業内容とパートナーとなる農業経営者に求めるマーケティングの考え方について講演しました。

個人投資家向け企業情報誌

「アイアール IR magazine」(野村インベスター・リレーションズ(株)発行)
2008年春号に掲載

「特別企画」に、事業内容と3ヶ年の中期経営計画を掲載しました。

農業ビジネス誌「農業経営者」(株)農業技術通信社発行)
2008年5月号に掲載

「価格を決めて売る農業経営」に、当社子会社の(株)農業支援が特集されました。

広告を「株式新聞」に掲載

株式新聞の企業情報特集のコーナーに、当社の事業説明となる広告を掲載しました。

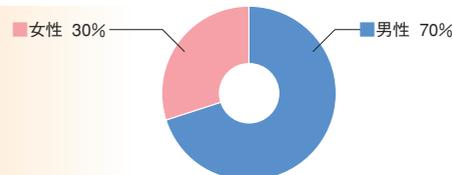
「株主さまアンケート」集計報告

第10期株主通信の送付に際して「株主さまアンケート」を同封し、当社の事業や株式に対する意識調査を実施させていただきました。多くの株主さまからご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

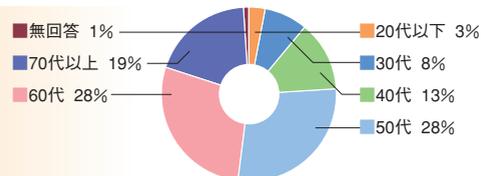
アンケートでは、株価や配当、経営・業績、IR活動などに関する厳しいご意見やご要望、支援のことばなど、数多くいただきました。ここにアンケートの集計結果をご報告いたします。

アンケート集計対象数：155件(返信率：16.3%)

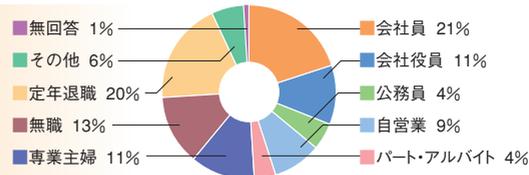
性別



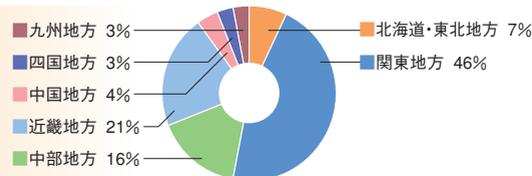
年齢別



職業別

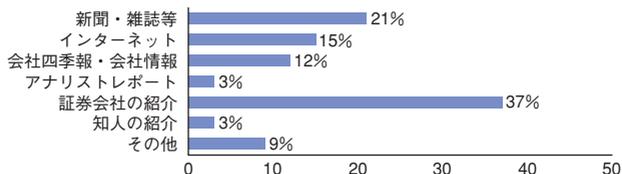


居住地

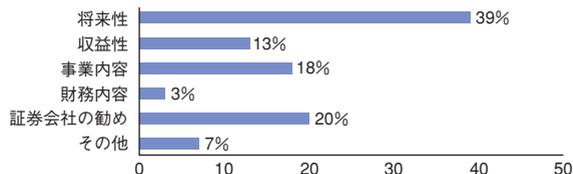


当社の株式購入について

当社をどのようにしてお知りになったか

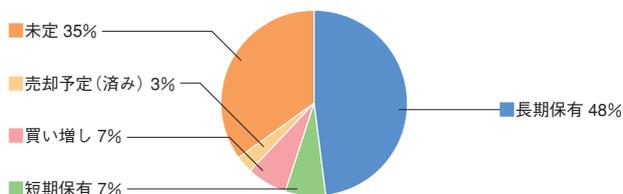


当社の株式を購入した理由（複数回答）

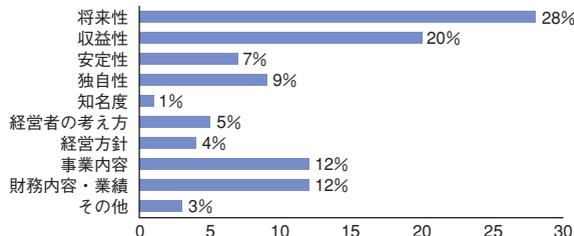


当社の株式に対する方針について

現在保有している当社株式に対する方針



当社株式の方針を決定する際に特に重視するもの（複数回答）



フリーコメント

株価について

- 株価が上がるよう業績アップの努力をお願いします。
- 株価の回復について、努力して頂きたい。

株主還元について

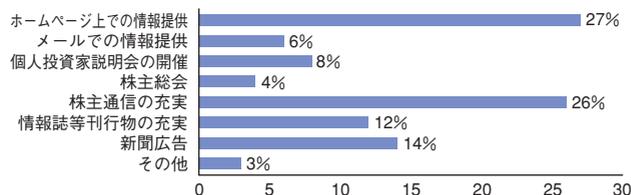
- 必ず黒字化を果たし、利益の株主還元をお願いします。
- 収益を上げて配当か株主優待をしてほしい。

ご要望・提案・激励

- イーサポートリンクの会社業績・知名度を高めてください。
- 食の安全が問題となっている今こそビジネスチャンスである。
- 食の安全・安心は時代の要請であり、生鮮XML-EDIを活用した新たな青果流通ビジネスにおける益々の活躍を期待しています。
- 日本の食料低自給率が顕在化し、生鮮食品市場の環境変化が期待される中で、貴社の成長を期待しています。
- (株)農業支援の事業は国内農業復興に寄与すると思うので、息の長い取り組みをお願いしたい。

IR活動／ホームページについて

当社のIR活動等に充実を求めるもの（複数回答）



当社のホームページについて



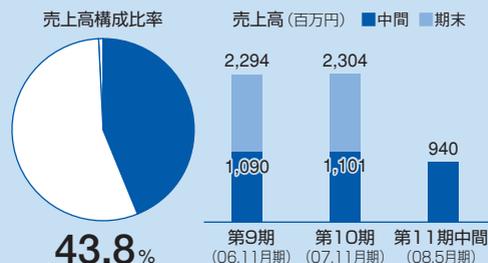
当社では、皆様からの貴重なご意見を今後の経営やIR活動に反映させるべく努め、企業価値の向上に取り組んでまいりますので、今後ともご支援賜りますよう、お願い申し上げます。また、今回も「株主さまアンケート」を実施いたしますので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

セグメント別売上高の状況

システム事業

システム事業におきましては、イーサポートリンクシステムに対する改良および各種新規機能開発により、ユーザーの利便性を高めて参りました。システム上に発生するデータ件数（トランザクション件数）は前年同期比で減少いたしました。新規システムのリリース等を進めて参りました。また、生鮮MDシステムのリリースに向けて、開発および導入支援準備を進めて参りました。

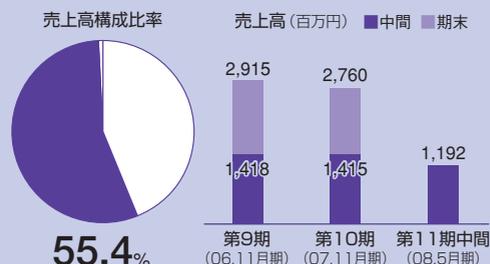
以上の結果、売上高は9億40百万円、営業利益は1百万円となりました。



業務受託事業

業務受託事業におきましては、生鮮青果流通業界における主要卸売市場の卸売数量が前年同期並であったものの、バナナ等の輸入量が前年を割り込んでいる状況の中、主要顧客向け取扱受注作業量が減少いたしました。このような状況のもと、更なるコスト削減に努めて参りました。

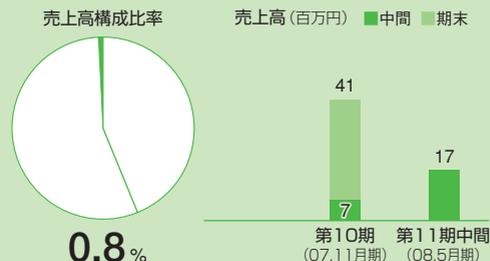
以上の結果、売上高は11億92百万円、営業利益は3億19百万円となりました。



その他事業

その他の事業におきましては、主に連結子会社の株式会社農業支援において、GAP認証取得農産物を中心としたりんごの受託販売事業を行っております。当事業におきましては、平成19年産りんごの選果および出荷において出荷は、販路の拡大に努めましたが、集荷が若干の未達となりました。

以上の結果、売上高は17百万円、営業損失は87百万円となりました。



中間個別財務諸表(要旨)

▶▶▶ 中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期 (2008年5月31日現在)	前期 (2007年11月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	1,696	1,551
固定資産	3,209	3,271
有形固定資産	81	91
無形固定資産	2,481	2,617
投資その他の資産	646	562
繰延資産	1	2
資産合計	4,907	4,825
(負債の部)		
流動負債	876	829
固定負債	293	228
負債合計	1,170	1,058
(純資産の部)		
株主資本	3,736	3,767
資本金	2,471	2,471
資本剰余金	1,233	1,233
利益剰余金	31	62
評価・換算差額等	△0	—
純資産合計	3,736	3,767
負債・純資産合計	4,907	4,825

▶▶▶ 中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (自2007年12月1日 至2008年5月31日)	前中間期 (自2006年12月1日 至2007年5月31日)
売上高	2,135	2,516
売上原価	1,713	2,094
売上総利益	421	422
販売費及び一般管理費	424	344
営業利益又は損失(△)	△2	78
営業外収益	4	1
営業外費用	9	23
経常利益又は損失(△)	△7	56
特別損失	16	4
税引前中間純利益 又は純損失(△)	△24	51
法人税、住民税及び事業税	7	36
法人税等調整額	△0	△12
中間純利益又は 純損失(△)	△30	27

▶▶▶ 中間株主資本等変動計算書

(自2007年12月1日 至2008年5月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
2007年11月30日残高	2,471	1,233	62	3,767	—	3,767
中間会計期間中の変動額						
中間純損失			△30	△30		△30
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)					△0	△0
中間会計期間中の変動額合計	—	—	△30	△30	△0	△30
2008年5月31日残高	2,471	1,233	31	3,736	△0	3,736

中間連結財務諸表(要旨)

▶▶▶ 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期 (2008年5月31日現在)	前期 (2007年11月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	1,467	1,410
① 固定資産	3,308	3,460
有形固定資産	319	311
無形固定資産	2,568	2,735
投資その他の資産	420	412
繰延資産	1	2
資産合計	4,777	4,873
② (負債の部)		
流動負債	922	962
固定負債	293	228
負債合計	1,215	1,190
(純資産の部)		
株主資本	3,561	3,682
資本金	2,471	2,471
資本剰余金	1,233	1,233
利益剰余金	△143	△22
評価・換算差額等	△0	—
純資産合計	3,561	3,682
負債・純資産合計	4,777	4,873

Point ① 固定資産

当中間連結会計期間の設備投資の総額は2億26百万円であり、ソフトウェアであるイーサポートリンクシステムの機能強化や新システムの開発、ならびに連結子会社の株式会社農業支援の事業用土地の購入等に投資をいたしました。

Point ② 負債の部

負債総額は前中間連結会計期間末に比べ、流動負債が1億67百万円減少し、固定負債が20百万円減少し、12億15百万円となりました。主な内訳は、流動負債が9億22百万円、固定負債は2億93百万円です。

Point ③ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は3億34百万円となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出3億円、有形固定資産の取得による支出29百万円等によるものであります。

▶▶▶ 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期
	(自2007年12月1日 至2008年5月31日)	(自2006年12月1日 至2007年5月31日)
売上高	2,150	2,524
売上原価	1,757	2,103
売上総利益	392	420
販売費及び一般管理費	514	352
営業利益又は損失(△)	△121	68
営業外収益	3	3
営業外費用	10	28
経常利益又は損失(△)	△128	43
特別利益	31	—
特別損失	16	4
税金等調整前中間純利益 又は純損失(△)	△114	38
法人税、住民税及び事業税	7	36
法人税等調整額	△0	△12
中間純利益又は 純損失(△)	△120	14

▶▶▶ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期
	(自2007年12月1日 至2008年5月31日)	(自2006年12月1日 至2007年5月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	152	448
③投資活動による キャッシュ・フロー	△334	△401
財務活動による キャッシュ・フロー	210	△258
現金及び現金同等物の 増減額	28	△211
現金及び現金同等物の 期首残高	738	1,233
現金及び現金同等物の 中間期末残高	767	1,022

▶▶▶ 中間連結株主資本等変動計算書

(自2007年12月1日 至2008年5月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
2007年11月30日残高	2,471	1,233	△22	3,682	—	3,682
中間連結会計期間中の変動額						
中間純損失			△120	△120		△120
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)					△0	△0
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	△120	△120	△0	△120
2008年5月31日残高	2,471	1,233	△143	3,561	△0	3,561

株式の状況／会社概要 (2008年5月31日現在)

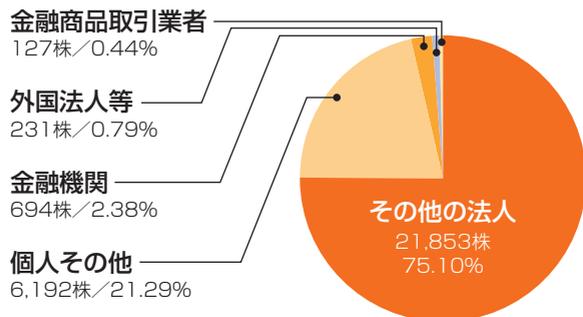
株式の状況

発行可能株式総数 107,000株
発行済株式総数 29,097株

大株主

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
株式会社ケーアイ・フレッシュアクセス	4,333	14.89
フレッシュMDホールディングス株式会社	2,583	8.88
全日本ライン株式会社	1,956	6.72
伊藤忠商事株式会社	1,883	6.47
ピー・エス・アセット・ホールディングス株式会社	1,883	6.47
株式会社上組	1,667	5.73
東洋埠頭株式会社	1,111	3.82
オリックス株式会社	1,111	3.82
株式会社フレッシュプロデュースドットコム	1,050	3.61
ファルコン投資事業組合	978	3.36

所有者別株式分布状況



会社概要

商号	イーサポートリンク株式会社 (英文商号 E-SUPPORTLINK, Ltd.)
本社所在地	東京都豊島区高田二丁目17番22号
設立	1998年10月6日
資本金	2,471百万円
従業員	303名(連結)／292名(個別)

役員 (2008年7月1日現在)

代表取締役社長	堀内 信介
取締役	藤本 操
取締役	仲村 淳
取締役	伊藤 史雄
取締役	森田 和彦
取締役	後藤 幸男
常勤監査役	佐藤 智之
常勤監査役	伊藤 日出夫
監査役	吉田 茂

株主メモ／ホームページのご案内

▶▶▶株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
定時株主総会	毎年2月
基準日	定時株主総会については、11月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日
公告方法	電子公告(当社ホームページ) 電子公告によることができない事由が生じたときは、 日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

お問い合わせ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-288-324 (フリーダイヤル)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインバスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
証券コード	2493

株券電子化に関してのお知らせ

正式には政令により、実施日が決定されますが、経済界・金融界としては、「2009年(平成21年)1月」を実施目標として株券電子化の準備を進めております。
株券をお手元(自宅・貸金庫など)をお持ちの場合は、お早めに証券会社を通じて「ほぶり」へお預けいただくことをおすすめいたします。

ホームページのご案内

当社ホームページでもIR情報をご覧いただけます。

当社では、『株主通信』ではお伝えしきれない情報を、ホームページにて開示しています。
株主・投資家の皆様に向けて、決算情報、決算説明資料、PR情報など、タイムリーな情報提供を心がけています。
ぜひ、ご覧ください。



当社の事業動向や今後の事業展開などを紹介しております。

【写真】
代表取締役社長 堀内 信介

<http://www.e-supportlink.com/>



 **イーサポートリング株式会社**

〒171-0033 東京都豊島区高田二丁目17番22号
TEL:03-5979-0666 FAX:03-5979-0667

 **PRINTED WITH
SOY INK™**
地球環境に配慮した大豆油
インキを使用しています